

**平成 30 年度 第 2 回 千曲市食料・農業・農村政策審議会
議 事 録**

日 時： 平成 30 年 11 月 27 日(火) 13：30～16：50

会 場： 千曲市役所 上山田庁舎 302 会議室

出席者： 内川会長、荒井副会長、徳原委員、池田委員、近藤委員、春日委員、前嶋委員、
栗原委員、村上委員、宮坂委員、渡邊委員、近藤委員

欠席者： 中島委員

議 題： 第二次千曲市食料・農業・農村基本計画 29 年度実施状況について

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事

第二次千曲市食料・農業・農村基本計画平成 29 年度実施状況について

事務局	—食料施策 1 項について説明—
委員	農薬の使い方が、本当に人家の 1 m そばまで果樹の枝がありそこを SS で消毒する事例があった。ほんとに人家の真ん中にある畑では非常に危険です。前に県の方に苦情を言って、県から市に指導してもらって、市から農業者に指導してもらった。その時は、消毒をやめました。その次の年から何回言っても聞かない。これは非常に危険です。朝のあまり風のない時でも、空気は流れているので農薬が人家の方に行ってしまう。こういう事はやめていただきたい。 エコファーマーと環境保全型農業について、私たちの仲間で 5 件ほど実施しているが、それ以外では実施されていない。これではやっているにならない。もっと推奨するよう PR して推進していただきたい。
事務局	通報があれば、現地を確認し、「住宅地における病虫害防除等に当って遵守すべき事項(県資料)」に照らし、対応を検討して指導している。農薬散布に当っては、事前に散布日時や使用農薬など周辺住民に幅広く周知することが必要とされている。 エコファーマーと環境保全型農業について、もっと PR を考えていきたい。
会長	29 年度エコファーマーの数が 11 件とあるのは、新たに認定された数なのか。継続している数なのか。
事務局	新たな認定はなく、継続中の数である。

委員	<p>エコファーマーの認証について、以前に普及センターの先生にお聞きしたところ、ここら辺の大概の農家の方は減農薬の基準を達しているので、化学肥料を有機肥料に変えることで、そんなに難しくなく認証が取れるとのことであるので、認証を進めてみたらいかがか。</p>
委員	<p>皆さんは農薬に対する知識がないと思う。今使われている農薬は本当に恐ろしい。世界では禁止になったり規制が強められているネオニコチノイド系農薬の規制が日本では規制が甘い。特に長野県の反当り使用料が多い。発達障害の子供が増えている。その発生率は、農薬の使用と正比例している。非常に恐ろしい農薬だということをもっと広く知らせたほうが良いと思う。</p>
委員	<p>農協の元技術員の立場で、農薬の関係について、申し上げる。ネオニコ系農薬は使っていない。劇物、毒物は極力減らしていく方向で、普通物で防除暦を組む体制を講じている。散布量もこの地区は多くない。雨が少ないので、出来るだけ散布量及び散布回数も減らしていきたいと講じている。化学肥料の関係でも、出来るだけ有機物由来の肥料を使ってもらよう指導している。エコファーマーと環境保全型農業について、取り組みは進めているが、取ったからといって何が出来るかが見えてこない。何が出来るかが見えてくれば、取る人も増えてくると思うし、また、私たちの農協ではほぼ取れる環境にはあると思う。</p>
会長	<p>そもそも、安全、安心などといったところの、農薬の話が出ているが、実態がきちんと十分に資料としてない。一部の詳しい人はご存知の部分もあるが、不安に思っている部分が本当はどうなのか、農協の取り組みを聞けば、わかる部分もあるが、周知されていない点が問題である。</p> <p>エコファーマーの認定のメリットについて、そもそも、実施そのものがエコファーマーを増やしたほう良いのか如何にも係ってくるが、十分な説明があっても良かったのではないかと思う。</p> <p>流通を含めて生産者と、消費者との間での相互の理解に差があるかもしれないなかで意見交換が十分でない点が明確になってきたと感じた。</p>
会長	<p>各項目に市で付けた自己評価について、どうなのかという点を出していきたいと思う。</p>
委員	<p>渋川市では農薬を使わないエコファーマーの産地を PR して販売を推進している。是非、農薬を使わない農産物の販売を進めてほしい。</p> <p>農家は、農産物が売れないと、生産が出来ない。消費を進めるため、学校給食などで率先して使ってもらうことが必要。</p> <p>上田市では学校給食の会をつくって、子供たちに食べさせるのだからなるべく農薬を使わない米や野菜を会で作って給食に出しているの、そういう取り組みをしていただきたい。</p>
幹事	<p>計画の 64 ページに LP2 のねらいと役割が書かれている。この項目での役割分担は農業者や農業団体が本気になって取組んでくださいとなっている。その結果、エコファーマーや環境保全型農業にご参入されてやっていただいている人もいる。その次に市の役割としてそれを使った農産物について消費者への理解の促進の部分で PR が抜けていた点が反省点である。無農薬、低農薬の生産者はいるが消費者とつなぐかけはしの部分で市の方が PR 不足をしていた。生産者は一生懸</p>

	命やっている団体があった。一方、市、消費者を含めて全体の理解が低いということで評価は可とさせていただいた。リーディングプロジェクトでそれぞれの役割が決まっているので、市の方で後押しをして農業を進めていきたい。
委員	農作物の安全性に関する消費者理解の促進について、行政でしっかりやっていただきたい。
会長	基本計画について、数字目標を設置していないということであるが、重点施策やリーディングプロジェクトなどについて、いつ実施するかというスケジュールはあるのか。
幹事	スケジュールについては、毎年この会議を開くことによって、実施状況を確認し、来年度に向けて、市がしなければいけないこと、みんながしなければいけないことを明確にして、目標に向かって進んでいこうと考えている。
会長	5年間はあっという間に過ぎてしまうので、この項目をどういった風に進めるかというものを出来るだけ早く5年間の中でいつごろやるというようなことをお立てになることがよろしいのではないかと感じた。
委員	いろんなことに対して、現段階でやっていることがあると思う。評価「未」とあるが、こういう対策をしていて評価がどうであったか、あるいはやり方がまずかったからこうなったなど段階が見えない。
会長	どの様な取り組みをするのか、明確になっていてこの段階まできているという説明があれば評価しやすい。
会長	加工流通ブランドツアーについて、食品加工過程における安全性を拡大するという意味において、2番目のHACCPの件はわかりやすいが、ブランドバスツアーによって市民の方に知らしめる取り組みを続けていくことのみで大丈夫かなと思う。食品加工過程や流通過程の部分で促進を図る取組みそのものが今後どうなるのか、今後、考えていく必要があると思う。
委員	ブランドバスツアーによって、加工会社に行かれているが、どの程度にそれぞれの会社で食品加工の安全性について話がされているのか、基本的に国産の農作物を使っているんだよとか、輸入品をどれだけ使っていて、どこから入れているよというところまで市民レベルとして聞かせてもらえればと思う。 商品として売られているものについても、国産を基本的には考えて購入する人が多いと思うが、輸入品がどの程度千曲市の加工会社で使用されているかということも気になる。
会長	食料施策1項の評価についてまとめたい。市の自己評価は不十分な部分もあるが最低限実施されているということで可となっている。今、るる意見が出たように、来年度に関しては、少し取り組みの内容そのものについて、検討する必要がある。そのうえで32年度までにやっていくようなものも含めて検討する必要があるといった方向性でその意見を付して可としたい。よろしいか。
委員一同	異議なし

事務局	—食料施策2項について説明—
委員	姨捨の棚田で耕作を行っているが、食卓と農業をつなげる食育というところで、田植えと稲刈りに子供さんが出てきていただいている。特に、刈った稲をはぜ掛けで干して食べるということに興味を持っている。来年度以降そういった取り組みも入れてもらいたい。
委員	農業体験をやっている小学校とやってない小学校がある。やっていない小学校でも何かの農業体験をさせられるようにやっていただけたら良いと思う。全校で1回しか出来ない形でなくて、学年毎に違う体験をさせられるように盛り込んで機会を増やせばよいと思う。 千曲市食ごよみが終わってしまったと聞く、是非増刷をお願いしたい。 学校給食の、野菜の市内使用率を高める施策をやっていただきたい。
会長	(1)食育体験の推進については、良となっていて、取り組みは行われているということによろしいか。今、いただいた取り組みについての意見を付して良としたい。 (2)食と健康について、良となっているがよろしいか。特に意見なければ良としたい。
委員一同	異議なし
会長	(3)地域密着型食生活と地域の食文化の継承についていかがか。
委員	私達かけはしの会で一生懸命やっている。学校に指導に行っているが、5、6年生のクラブでは、包丁やガスの使い方が出来ない子が多く、単なる調理指導だけでなく安全面や器具について、結局大人が見てあげなければならない。指導者も高齢化してきているので、毎年リーダー講習会を開いて、リーダーになってくれる人を増やすようお願いしたい。
委員	この分野は、各家庭や母親の役割も大事になってくると思う。
委員	世の中の変化で、お母さんは勤めに行かなくてはならなくなり、調理などについて、昔だったら各家庭で出来ていたことが出来なくなってきた。また、学校の先生もそこまで手が回らない。このため、地域で見なければということで活動をしている。難しい作り方は出来なくても良いが、包丁でりんごの皮を剥くとか野菜少し切って味噌汁をつくるとかいうのは全員ができればこれから生活していくのに困ると思う。 教育委員会や学校で、家庭教育について、そういう生活の分野まで指導していただけたらと思う。
会長	施策の2項は学校・家庭・社会教育機関・地域社会等が連携したとあるので、それぞれの役割をどうするのかということも、範疇と思われるので、システムについては時代の変化の中で昔と同じではないと思うが、その辺も考える場を前提にしたほうが、何をやるのか事業的には先行してしまうが、どういう風にやるのかといった部分もどこかで議論したほうがとよろしいのではないかとしたこと付すような感じで、この評価の「優」というのは現在一生懸命やっている、評価的には十分ということによろしいか。

委員一同	異議なし
会長	(4)給食について、ご意見いただきたい。先程、ご意見の野菜の市内産の消費について、事務局で補足あればお願いしたい。
事務局	野菜については、千曲市産でまとまった量かつ同一規格のものを用意することが難しい。 JA、青果商組合、農林課、学校給食センターで構成する「千曲市学校給食に係る地元農産物等利用促進連絡協議会」において、千曲市産農産物の消費拡大について協議している。
委員	学校給食について、センター方式だとどうしても数が多くなってしまって難しい。半分ずつ、または学年ごとにメニューを変えるなどやり方があるのではないかと思う。
会長	ここも自己評価的には、可ということで、まだまだ可能性があるということなので、取り組みも含めて検討していただく方向でよろしいか。
委員一同	異議なし
事務局	—食料施策3項について説明—
委員	上山田温泉利用する中で、地域の農作物が使われているのかなという疑問が多々ある。果物も野菜もそうだが、山菜の時期に山菜がない、きのこが採れる時期にきのこが出ていない、そんな場面が比較的多かったり、刺身にしても昔は地物の鯉を出していた旅館があったが今は見なくなった。鮎にしても、鮎の時期に鮎が出ていない。そういった地域にあるものをもう少し提供することによって温泉自体の活気にもなるのではと思う。やっぱり流行っている温泉というと、そこに行ってその土地の食を楽しめる。是非、千曲市の温泉旅館にもお願いしたいということで行政からも提案いただけたらどうかと思う。
委員	以前旅館に勤めていた。その当時の上山田温泉は景気が良くお客さんが押し寄せていた。その当時は川魚料理、鯉こく、鯉の旨煮を出していた。その当時は、調理師さんの連携がものすごくとれていた。調理師会というのがあって、月に2度位のペースで料理講習会を開いていた。しかも郷土料理講習会ということで各旅館の板前さんが分担で新しい料理を作ってきて発表していた。今は、調理師さん同士の繋がりが一切ない。もっと言うと旅館同士の繋がりもない。何が原因かという経営状態が良くない。そんなことやっている状態ではなくなってきた。また、お客さんが川魚や鯉料理を食べなくなってきた。ただ、出せばいいという訳にも行かず、旅館では出さなくなってきたということも加味して考えていただきたい。
会長	この項について、自己評価的には可となっている。まだまだ、可能性があるとも受け止められるし、今、いただいた意見を付して可という方向でよろしいか。
委員一同	異議なし
事務局	—農業施策第4項説明—

委員	<p>アグリサポーターの関係について、人材不足が非常に顕著で農家さんがサポーターを待つと作業の適期が過ぎてしまう場合も多々見られる。何とか人員を確保していただきたい。</p> <p>認定農業者に認定されても、特典があまりなく、なんとなく認定になっても使える制度がなければ、なっても価値がない。先程のエコファーマーと同じでなってもいいけど何のメリットもないから登録しないという農家さんも結構多く聞かれる。そんなところも、県とか上部団体に何らかの提案を申し上げることが出来ないかなあと思う。</p> <p>ちくま管外から就農される方も結構多く聞くが、残念ながらアパート住まいで農業をやられている方もいる。今、就農相談で東京に出向いて行っていただいているが、折角来ていただいても、そういった住まいまでの提案がやっぱり必要なのかなということでは是非早めに形づくりをお願いしたい。</p>
委員	<p>新規就農者の受入について、都会の方から I ターンで農業をやりたいと就農したいといってくる人達の多くは安全安心を求めた農業を求める人が多い。羽咋市では農薬や化学肥料を使わない安全安心な農業を進めるということを出して、それで、新規就農者が増えたということを知っている。若い人達は、安全なものを自分達で作りたい。安全なものを求めてくる。千曲市もそういう地域づくりを目指してやっていただければなあ強く願う。</p>
委員	<p>新規就農者は、千曲市内で農家を継いだり、市に何らかの関係がある人が多い。もう少し市としての新たな農業のアピールが必要。高齢化が進んでいる点、新規就農説明に対しやめられた農業者の数から考えると、持続的な農業がやっていけないのではないかと、総合的に新たに受け入れる体制を考え直すべきと思う。</p>
委員	<p>女性の農業者の活躍できる地域づくりについて、この地域の就農状況は、女性が半分を担っている。女性がきちんと営農に関わらないと農業としてやっていけないので営農面での支援をお願いしたい。</p> <p>女性の意識改革は難しいが、会議に出て行って、きちんと意見を言っていたらいいような地域づくりとか、公の場所へ女性が出て行って意見が言える状況づくりっていうのも、女性参画ということではいいと思う。</p> <p>この会もそうですね、こんなにたくさんの女の人がいるのは珍しい。</p>
委員	<p>あんずは収穫時期が短いので、アグリサポーターをお願いしたいと思っても、りんごとかそういったものと違って、本当に 1 週間で終わってしまう。早いものはその日のうちに採らなければいけない。温度差によるので採れる時期がわからない。アグリサポーターをお願いする時期というのがすごい難しいので、悩んでいる。</p>
事務局	<p>あんずの収穫時期は、意外とアグリサポーターの需要が少ない時期で手が空いているので、来年は是非トライしていただきたい。1 週間前でも良いので連絡いただきたい。</p> <p>新規就農の関係では、新規就農者 1 名というのは、ここに書いてあるのは認定新規農業者で国の制度で市が認定申し上げる認定の数がベースとなっている。これは農業後継者とかで入ってきたパターンとか兼業農家が入ってきたパターンは該当していない。農業だけをひたすらやっていくという人が対象になって認定しているような制度である。実際は農家子弟で入ってきていただいている人や兼業</p>

	で入ってきていただいている方はもっとたくさんある。
会長	それは、データの的には加えたほうがよろしいのではないか。
事務局	行政とのつながりが薄い方になってしまい、数字がカチッと出ないが、来年は工夫して記載方法は検討したい。
会長	(1)～(3)まで自己評価は、いずれも良となっているが、いくつかご意見いただいたので事務局でまとめていただきながら付していただきその方向でよろしいか。
委員一同	意義なし
事務局	—農業施策第5項説明—
委員	水田の転作で、そばを作付けしているが、どう見ても収量が見込めないような状況である。大豆は結構いいようなので、そばをやめて全部大豆にしたほうが良いと思う。
委員	森地区に農業を専門にやっている方たちが2名いて、そばをつくる人と大豆をつくる人は別々の人がやっている。いずれも、農業を自分でやらない人の農地を請負で耕作し、耕作者がそばをつくるとか大豆をつくるとか決めている。すごいお金を掛けてやっているの、うまいければいいなと思う。
事務局	そばについて、昔からやっているわけではなくて、近年、農協との連携により、種子用のそばとして採取している。千曲市のためだけになっている訳でなくて、JA長野ブロック管内だとか、それ以外にも出していると聞いている。種子用としてはそこそこ良いものが採れているそうである。適合する土地ということも一方ではあるそうで、しばらくは提携していただくのがよろしいかと思う。
会長	トータルの話として、農業経営の高付加価値化と安定化の支援ということで、気になったのは実際にこの農家の方々の経営体としてのモデルとして、収入を含めて全体としてどういう風にやられているのかというような、事例をお示しになる方が良いかなと感じた。そうしないとなかなか次世代の担い手の話しにしてもそうだが、なかなか描くものがないので、取組みがわかりにくい。その辺も含めて全部可という状況だが、今いただいた意見も含めてトータルとして総合的に考えることがよろしいかと思う。このような状況でいずれも可という方向でいければと思うが、よろしいか。
委員一同	意義なし
委員	あんずのプレミアム化について、ハーコットとあるが、実際価格が安い。あんずは2000トン位しか生産量がない。りんごとかみかんは80万トン位ある。400分の1位である。スイーツやシロップ漬けになるのはその半分で、あんずの生産はりんごやみかんの900分の1位しかない。そうすると、それ自身がかなりプレミアムだが価格は跳ね返っていない。ほとんど農業者が辞めていってしまう。その辺の高付加価値をどうにかつけれないかなあとということで、プレミアム化の推進について特に力をいれていってほしい。

会長	それでは、その辺のご意見も含めて、この評価を原案どおり進めたいと思う。
委員一同	異議なし
事務局	—農村施策第6項説明—
会長	実は私は専門が農村計画学というもので、土地利用計画等が主となっている。気になるところは、農振の新しい整備計画がつけられたということだが、例えば、耕作放棄地の位置なんかも、どこでどのように発生しているのか、位置情報をいただければ、先程来すべての項目が関係しているが、担い手の話だとか全部リンクしてくるが、そこら当りのことも含めて、場所によっては、中山間のエリアの中で、条件の悪いところで荒廃地が発生しているというような違いがあると思う。その辺を同じベースで語られるとちょっとわかりにくいところがある。おそらく市は広い面積があるのでそういうゾーニングのような地区区分を踏まえてご検討いただくのが農用地計画的にはいいのかなと思う。それらを、含めて、この評価についていかがか。ご意見なければ、原案どおり評価したい。
委員一同	異議なし
事務局	—農村施策第7項説明—
委員	害鳥とは具体的に何か
事務局	すずめ、カラス、カモ類などです。
委員	イノシシ、シカは最後にはどういう風に処分されたのか。肉に加工しないのか。
事務局	猟友会の皆さんに個人的に処分いただいている。販売に出すことは今のところない。
委員	これからも、きっと増える可能性があるので、処理をどういうふうにするかがまた一つ課題かなと思った。
委員	あんずの木を後世に残すための管理ということで、景観木に補助をしているが、それがもう何年もたっているのも、昔はすごくきれいで良かったが、今は虫の発生源になって迷惑になっているものもある。そこから外のあんずにみんな移ってしまうということで、いろいろ周りから言われるので、切ってしまう。それに対しても、全部切ってしまうと補助がもらえないから、景観木という看板だけ付いているとか、いろいろあるのでその点をもう一度調べ直していただいて、どんなものか見ていただきたい。
委員	あんずの景観木について、本当に花の時期はきれいだ。それがどんどんなくなってしまっている。農薬以外にも、実際に確認しているが、木自体を元気にしてくれると、虫やなんかも付かなくなって、枯れるのを防ぐことが出来るのでそういう方法で考えていかなければならないと思う。
会長	先程、土地利用計画的なお話をしたが、農業の近代化が相当でない地域なんかも、中山間のことだと思うが、その中でも、おそらく棚田みたいなのところもあれば果

委員一同	樹の話出てきたりもするが、おそらくそういう区分をしないと、全部一緒に話をするのは非常に難しいと感じている。 第7項の評価の事務局案に対してこの方向でよろしいか。
会長	異議なし これで、一通り最後までできたので、すべての実施状況についての評価をお終いにしたいと思う。

4 その他

幹事	只今、自己評価した部分及び皆さんからいただいた意見を取りまとめて、付帯意見等を付けてきちんとした形でまとめまして、皆さんにお配りして確認の方を取らせていただければと思う。その後、手続きを踏んで市の方のホームページ等にきちんとした形で報告して、来年度、更に良くなる方向に行くように事業展開していきたいかと思う。
----	--

情勢報告事務局より説明

- ・第10回千曲市食の文化際について
- ・雨宮産業団地造成に事業に伴う農振農用地除外について
- ・屋代沖ほ場における意向調査の実施について

5 閉会